

このページに関するお問い合わせは
環境局計画課☎211-2912へ。
審議会の情報などは、清掃ホームページもご覧ください。
(HP) www.city.sapporo.jp/seiso

待ったなし! ごみ減量

シリーズ
187万都市の
課題

第2回

ごみの減量、 私たちはこう考える

第1回に対して寄せられた声の総数は約50件。その約8割が「家庭ごみの有料化」に関するものでした。「賛成」「反対」はほぼ同数。皆さんはどう思いますか?

ごみ処理全般

ごみになりやすく、
分別しやすい製品を作るよう、
生産者である企業への規制を
設けるべき。
(20代・男性)

ごみの排出量が
少ない家庭には特典があるなど、
「まじめに取り組む人」のやる気が
高まるような制度であって
ほしいと思います。
(30代・女性)

私の町内では、
アパート世帯の
ごみ出しマナーが悪い。
市は、もっと分別指導の徹底など
働き掛けを強化すべきだ。
(40代・男性)

家庭で使わなくなった
ものを、まちづくりセンターや
町内会で販売するなど、
もっと再利用を定着させる
仕組みを考えてほしい。
(男性)

生ごみを堆肥化する
施設を、地域の要所に
設置してほしい。
(男性)

札幌市長
う え だ ふ み お
上田文雄



5月号(第1回)の問題提起に対して、皆さんからたくさんのご意見をいただきました。一つ一つの声を真剣に受け止めながら、ごみの減量には乗り越えるべき多くの課題があるのだと、あらためて認識しています。

現在、学識経験者や市民団体の代表などで構成する審議会でも、札幌市のごみ減量施策について専門的な見地から議論してもらっています。今後、皆さんの声も意見交換会などを通して幅広く聞きながら、答申をまとめていただく予定です。

第2回は、皆さんから寄せられた声と審議会の動きを合わせてお伝えします。「自分たちのことは自分たちで決める」というのが、私の目指す「市民自治が息づくまちづくり」の基本的な考え方です。ごみの減量をどのように進めていけばよいのか、“自分たちのこと”として、一緒に議論を深めていきましょう。

ひと口メモ 生ごみの堆肥化

家庭ごみの3分の1を占める「生ごみ」は、身近な材料を使って良質な堆肥にすることができます。最も手軽なのが「ダンボール方式」。ダンボールと土壌改良材(ホームセンターなどで販売)があればOKです。

少ない費用で大きな効果が得られます。皆さんもぜひ!

[詳細](#) ごみ減量推進課☎211-2928

